



2012.9.16 敬老会

揺るがない信仰

助任司祭 ニコ神父

私たちの日常生活の中で色々な試練いわゆる人生の嵐があると思います。この世では試練、人生の嵐がない人はいくらもいないでしょう。それぞれの置かれている場によって、訪れる試練が違ってくるかもしれない。しかし、私たちキリスト者として、いろいろな試練が訪れた時に信仰そのものを問われることになりません。日々生活の試練によって信仰を見失うのではなく、逆に信仰が強くなる、という姿勢が求められます。

これに関連して、私たちは母マリアの信仰に目を向ける必要があると思います。ルカ1章8節にはマリアが神のお告げに対して「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と答えます。真にこの言葉を通して母マリアは信仰をもって神のお告げを慎重に受け止め、口だけではなく力強い実行力のある信仰者であることを示してくれているのです。母マリアは神のお告げを受けられたその最初からイエスの十字架のもとで、イエスの死を受け取られた最後まで神の計らいを忠実に果たした方です。それは母マリアが神の御言葉に耳をしっかりと傾けて、その御言葉を信じて生きるということであろうと思います。これこそがマリアの御言葉に対する深い信仰でしょう。

私たちは母マリアの信仰の生き方に倣って、私たち一人ひとりの信仰を少しでも見直し、信仰を深めていきたいものです。そのために私たち一人ひとり神の御言葉をしっかりと聞いて心に受け止め、その御言葉と一致して日々歩んでいきましょう。そうすることがよって、どんな状況に置かれても、どんなことがあってもイエスから離れて生きていくのではなく、揺るがない信仰の確信を持って歩んでいくことが出来るでしょう。

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
第3土曜日 午前10時30分 子供のミサ(マリア館)
火曜日 午後7時
金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時
聖体礼拝： 土曜日 午後5時30分

主日のミサ時刻：

土曜日 午後2時30分
日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
Sunday Mass in English 9:30 am
(at the Maria Kan Hall)
ベトナム語のミサ 第4日曜日 午後3時30分

中高生会一日の集い

梅村祥子

今年も夏合宿に替えて、夏休みも終わりに近い八月二十五日(土)に、中高生会で一日の集いを南山教会で持ちました。参加者は午前中五名、午後からは十名となりました。テーマは「自然との共生」でした。午前中はDVD「大いなる河の流れ」と「木を植えた男」を見ました。前者は自然からの恩恵を受けながらも搾取をやめられず、自然を破壊し続ける人間が描かれ、後者は自然を回復させる一人の男(人間)の偉業をたたえる内容でした。



午後からは、原発と放射能の問題を考え、その後「康子十九歳戦禍の日記」という原爆の二次被爆で亡くなった女性の話の朗読を聞きました。そして、アントニー神父様の指導で、これらの題材をもとに、私たちに何が出来るか考え分ち合いました。皆、真剣に何が出来るか考えました。良い考えを持つことと同時に、それを行動に移す力、精神力を若い時から培うことが必要だというアントニー神父様のお話が印象に残りました。最後にミサを献げ、その中で私たち人間が自然と共生してゆけることができるよう祈りました。

昼食は、皆で一緒に冷やし中華を作って食べました。夕食は、保護者の方の協力を得て、バーベキューをし、ニコ神父様がインドネシアの踊りを教えてくださり、花火をして楽しい時を過ごしました。良く考え、良く祈り、良く食べ、良く踊り、良く花火を楽しんだ一日でした。

今後のことですが、十月二十八日(日)は、たくさんの中高生がバザーの手伝い(焼きそば他)をしてくれることを希望します。また、十一月十一日(日)はアントニー神父様と「手作りうどん」を作ることを計画しています。興味のある中高生は是非参加してください。

四木会 第100回記念 参加者名簿



南山教会 四木会第100回記念

2012年6月28日

- | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 工藤氏 | 岡部氏 | 成井氏 | 濱田氏 | 樋口氏 | 仙座氏 | アントニー師 | 二村氏 | 井上氏 | 櫻井氏 | 津田氏 | 松田氏 | 横地氏 |
| 本告氏 | | 井爪氏 | | 田村氏 | 鎌田氏 | ボクダン師 | | ニコ師 | | 小笠原氏 | | 山上氏 |

南山教会では永年にわたり韓国にあるハンセン病療養施設「聖ラザロ村」を資金援助してきました。最近一年間の資金収支活動を左記とおりに報告します。昨今は支援者の方々の高齢化により献金額は減少気味で、昨年の実績を下回りました。聖ラザロ村の皆さんと祈りの交流をより深めるよう今後の一層のご理解とご支援をお願いします。

聖ラザロ村友の会 第39回会計報告
収支計算書

自 2011年9月1日 至 2012年8月31日 単位 円

収入の部	金額	支出の部	金額
期首 銀行預金残高	52,288	送金手数料	36,580
一般 寄付金	1,572,900	通信費	8,800
受取 利息	11	印刷費	12,600
		聖ラザロ村 送金額	
		2011年 10月24日	114,006
		12月27日	491,600
		2012年 1月26日	476,000
		3月5日	133,005
		5月16日	136,000
		8月21日	183,466
		期末 銀行預金残高	33,142
合 計	1,625,199	合 計	1,625,199

城東ブロックの集い

松浦典文

9月23日(日)13時30分からカトリック東山教会聖堂にて城東ブロックの集いが開催されました。

百名近い方が参加されました。野村司教様もいらっしやいました。

キリシタン研究家の木越邦子氏の講演があり、金沢で26年過ごした高山右近についてお話を伺いました。戦国の武将という立場で信仰を貫いた右近の生き方は、私たち



9月23日 長野県伊那教会でミニ・パチカン展



にもいろいろ示唆を与えてくれます。弱い立場にある方々の立場に立って考え、愛の技を実行した右近に習いたいと思います。高山右近の列福に向けた動きは、活発になってきています。これを機会に右近の歩みを学ぶことには大いに意味があると思います。資料を見たいという方がいらっしやいましたら、お声がけいただければお貸しします。

使徒信条の解説 (1)



B・ノヴァク神父

「信仰年」にあたって、教皇ベネディクト16世は、信仰の基礎に戻るようと呼びかけています。この呼びかけに答えて、一人ひとりの信徒が一年間をかけて「カトリック教会のカテキズム」、または、カトリック中央協議会が出版した「カトリック教会のカテキズム要約」を読むのは望ましいと思いますが、私としては、私たちの信仰の基本を短くまとめている使徒信条をカトリック教会カテキズムに基づいて、11回に渡って解説していきたいと思えます。

「天地の創造主、全能の父である神を信じます。」

カトリック教会カテキズムの最初の文書において教会は次のように宣言します。すなわち「神は、無限に完全、他によることのない至福そのものであって、ただいっくしみによる計画から、ご自分の至福のないのちに必ずからせる人間を自由に創造されました。したがって、いつ、どこでも、人間に

親身に心を配り、呼びかけ、人間が全力を尽くしてご自分を求め、知り、愛することができよう助けられておられます。」(カテキズム1) 実質は、私たちの信仰は、このような神の働きへの応えであり、私たちの人生に創造主が定めてくださった意義を与えるものであると共に人生に方向付けるものなのです。

人間は、神によって、また神に向けて、つまり神との愛の交わりにおいて永遠に生きるために創造された存在ですので、人間にとって最高の幸福であるこの愛の交わりが人生の最終的な目的であって、人間の心に深く刻まれている望みなのです。ですから、あらゆる時代、あらゆる文化において人間が多様な仕方でも神を探求していることが見られているのは、不思議ではないでしょう。

しかし、神との内面的な繋がりは、人間にとって永遠に、しかも至福の内に生きるためにどうしても必要なものであっても、人間は、それを忘れることも、軽視することもできません。さらに拒否すること、このような態度の原因とし

て次のようなものが考えられます。「すなわち、世の悪に対する反発、宗教的な無知または無関心、世の悪い煩いや富の誘惑、信者の悪い模範、反宗教的な風潮、神から逃げようとする罪びととしての人間の姿勢です。」(カテキズム29)

神への道を妨げることが多くても、神は常にすべての人々に呼びかけていますので、神を見つけることが誰にとっても可能なのです。「しかし、この探求は人間の側に、知性の絶え間ない努力と意志の正しさ、『まっすぐな心』、また、神のことを求める他の人々のあかしを必要とします。」(カテキズム30)

神は、私たちの現実を超えておられる存在ですので、この世のものを知るように、神を知ることができませんが、神を知るための幾つかの道、つまり神を知る方法があります。そのうちのひとつとは、神が創造してくださった世界です。ローマ人の信徒への手紙の中に次のように書き記されています。「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れ、これを通して神を知ることができまます。」(ロマ1・20)

神の似姿として、神に象って創造された人間なのです。カテキズムは、この二つの道について、次のように語ります。「世界と人間は、第一原因でも、究極目的でもないことを示します。両者は、初めも終わりのない存在そのものにあずかっています。ですから、これらの多様な『道』によって、人間は、いつさいのもの第一の原因、究極目的である一つの実存が存在するということを知ることができまます。すべての人は、この実存を『神』と呼んでいます。」(カテキズム35)

世界と人間を知ることによって、人間はある程度まで神を知ることができても、それらには限界があり、以上述べた様々な障害が存在しているゆえに、人間が不確実、場合によって、間違った結論を出すことがあります。幸いに、世界や人間という「道」よりも、神を知るもつと確実な「道」があります。それについて、ヘブライ人への手紙の中で次のように書き記されています。「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によって私たちに語られました。神は、この御子を万物の相統者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子

は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れで」あります。(ヘブ1・13)つまり、神は、イスラエル人の歴史の中でいろいろな人物や出来事をおして、特に、「見えない神の姿」(コロ1・15)であるイエス・キリストにおいて、ご自分のこと、ご自分の性格や望みを世界に現してくださったということなのです。この神の自己啓示は、聖書の言葉と教会の聖伝によって、私たちに伝えられているのです。

私たちは、神について語るとき、または、神について読んだり、他の人の話しを聞いたりするときに、次のことを意識する必要があります。すなわち、神の現実と私たちの現実とは全く異なりますから、私たちがこの世の現実を描くために、また、自分の体験を表現するために作られた言葉をもつて神の現実を相応しく表現することができないということなのです。例えば「神は光である」と言うときは、「暗闇」よりも、「光」の方が神の現実を正しく表現する言葉であっても、神は、私たちが知っている太陽や火や電球の光と同じような存在であるわけではなく、ただ、光が暗闇を照らしているように、神が私たちの心の闇を照らしてくださいるか、命への道を示してくださいるか、また、

光が生きるために必要であるように、神が生きるために不可欠な存在であるというように、神を象徴的に言うのです。神についての私たちの考えだけではなく、私たちの表現や私たちが持っている神のイメージが間違っていないけれども、必ず不完全であり、神ご自身とは異なりますので、その考えや表現やイメージはどんなにすばらしいものであっても、神はいつもそれ以上にすばらしい存在です。したがって、神をよりよく知るようになるために、今持っている神についての考えやイメージに執着することなく、それらを変える覚悟を持つことが必要なのです。

私たちは、次のような神の本性を知り得ることができません。無から宇宙万物を創造してくださった神は、この世界の一部ではなく、この世を超越して、世界や人間の存在と違って、神の存在は何にも依らない、つまり、神は、存在するために被造物から何も必要としないし、いつも(過去、現在、将来)存在している方、

素晴らしい宇宙を創造してくださった神は、全能者、つまり何でもできる方で、また、全知、何でも知っておられる方なのです。神は、創造してくださった世界を支配し、ご自分が定めた目的に導いてくださる意味で、世界を支配しています。つまり、この世界と私たちの人生に関わっている方なのです。神は、「何か」とか「何等か」ではなく「誰か」、つまり意志、心と知恵のある「どなたか」、位格的な存在、ペルソナなのです。神は唯一でありながら、一つになるほど完全な愛によって

も知っておられる方なのです。神は、創造してくださった世界を支配し、ご自分が定めた目的に導いてくださる意味で、世界を支配しています。つまり、この世界と私たちの人生に関わっている方なのです。神は、「何か」とか「何等か」ではなく「誰か」、つまり意志、心と知恵のある「どなたか」、位格的な存在、ペルソナなのです。神は唯一でありながら、一つになるほど完全な愛によって

えに、人間がご自分の愛の交わりに参加することを求めておられます。そのために、神は、人間が神を捜し求めるように、神との友情の関係を結びたいと求めるように、人間のために善を行い、人間に対する愛を表し、この望みを起こそうとしておられます。たとえ私たちは、神の愛を裏切つて、から離れたとしても、神は、私たちを愛し続け、いつも私たちの罪を赦して、ご自分との交わりに受け入れてくださる誠実で正しい方なのです。

神は、私たちの父であり、ご自分の命にあずからせることによつて人間をご自分の子にしてくださいるか、必要があります。

2012年10月7日

報告事項
敬老会

9月16日(日)45名参加。
百歳の方も参加。

弁当とお吸い物、お菓子を提供した。お吸い物がおいしかったと好評で、マリア会としても嬉しかった。

出し物は、南山小の箏、教会学校、中高生会、八事界隈の昔の映像と名古屋弁

城東ブロックの集い

9月23日東山教会で行われた。木越邦子氏による講演が主なプログラム。列福に向けた動きが活発になってきている高山右近についての話であった。右近は26年間金沢に在住し、名古屋教区とも縁がある。

教会美化

9月30日に実施。台風接近のため参加者がやや少なかった。50名弱の参加。事前作業を含め円滑に行うことができた。刈った草等の処理費用は三九、五〇〇円十消費税。道具も整備した。費用三二、〇〇〇円

納骨堂建設委員会現況報告

設計図が示された。楕円形の建物で、マリア館東側に長い部分がある。

東西に向く配置となる見込み。道路からは木に隠れてほとんど見えない見込み。マリア館からもそれほど見えない。

千四百の納骨壇を設置予定。一つの納骨壇に4つの骨壺が入る大きさ。

近隣の同意を得る作業を今月ぐらいから行い始める見込み。

建設資金も集めなければならぬ。それに向けて規約の整備もしていく。

お金を扱うので、土日だけでも良いのでアルバイトを雇う必要もある。募集を始めたときに殺到する可能性も考えておく。

駐車場を増やす要望があったが、それは実現できない見込み。ただし、車の出し入れはしやすくなりそうである。

駐車場と建物の間は、追突防止のため少しあける。

救急医療研修

11月18日(日)10時45分から日赤の講師2名を招いて1時間半程度の講習会を開催する。30〜40名の参加を見込んでいる。事務所にて参加受付中。現在の申し込みは10名程度。

審議事項

バザー

開催月にあたり、最終確認を行った。出店計画と備品について

書面で示された。必要備品の修正は実行委員長に書面または電話で12日金曜日までに知らせる。

バザー立て看板を設置した。風対策はボイスカウトの玉田さんに依頼。

アトラクション用のステージは設置しない。ドーロドーロ踊りはステージがない方がよいし、歌もステージなしでできるため。

値段の確認もあった。チケットの事前販売は好調。すでに売り切れが出ている。

「信仰年」開幕

信徒の皆様からいただいた4つのご提案を受け、南山教会の取り組みを検討した。

信仰年の今年は、第2バチカン公会議始まって50年。カトリック教会のカテキズム20年の節目の年。

信仰年の開始日である10月11日木曜日に特別な典礼を行う。司教様の許可が出れば、10月14日曜日9時半ミサでも特別な典礼を行う。

祈りのカードを聖書と典礼に挟む。カードの裏にはニケア公会議の信条を載せる。

月報には信仰宣言を1ヶ所に分けて解説を載せる。

受洗記念日のカードの発送は現実問題としては難しい。事務がパ

ンクしてしまおう。祈りをカードにして一斉にお渡しすることは可能。

洗礼の約束の更新は復活のときに行っている。

霊名を同じくする者の集いも現実には難しい。

売店外の掲示板に南山教会以外の人を教会に招くための絵や文章を掲示していく。当番表を作って各会で担当し、1ヶ月毎に更新できると良い。各会に持ち帰って検討し、来月の運営委員会で決定する。

信仰年の趣旨と掲示は信仰の証しという意味でリンクする。

マリア館厨房冷蔵庫新規購入

4つの冷蔵庫のうち1台調子が悪い。業者によれば修理不能とのこと。入れ替え購入をする。現在と同じ470リットルの製品では目的に合うものがないので545リットルのものを導入する。

新しい冷蔵庫は不要なときに電源を落としても大丈夫なので、必要がないときには通電しないようにする。

鐘の修理

그리스交換の結果、調子が良くなったが、今後の経過を見て必要なら修理を検討する。

信徒協役員候補の選出

ヨセフ会とマリア会から各1名

の候補者を次回運営委員会までに選出する。

9月30日 教会美化に参加。子供たちも清掃を手伝った。

ボーイスカウト
寄付金をいただいたので、冷蔵庫とエアコンを入れ替える。エアコンは200ポルト仕様のもの。

9月23日 長野県伊那教会でミニ・バチカン展開催。約百名の来場者があった。

各会報告

聖ラザロ村友の会

決算書が示された。P. 3参照

9月16日の敬老会は45名の方が参加。マリア会が昼食を準備。

39年続いている活動で、韓国で喜ばれている。

例年より参加人数が少なかったのは、参加のお知らせが、ミスのため9月になってから、発送されたことも要因と考えられる。

営繕委員会

マリア館厨房の雨漏りについて処置した結果、現在改善している。

9月30日教会美化の日お茶の準備。

原因はコンクリートの亀裂だったので、そこに充填材を入れた。

東日本震災支援のため例会でのミニバザー収益は7月9月10月開催にて一六、三〇五円カリタスへ寄付。

財務委員会

上半期の教会維持費は前年比約6.3%増加した。

10月14日(日)盲導犬募金。

しかし、まだ積立金の目標値に達していないので、引き続きPRを行っていく予定。

会場は栄
午前中カブスカウトと
ビーバースカウトが参加

青年会

10月20日(土)名古屋まつり沿道警備(リーダー・団委員)

9月15日16日ネットワークミーティングin世界平和記念聖堂に参加。各教区の青年と情報交換や分かち合いを行った。

21日(日)名古屋まつり沿道警備(リーダー・ボーイスカウト)

教会学校

次回は11月4日

9月16日 敬老会に参加。お祝いカードと聖歌をプレゼントした。

10月21日ミサ後の各会紹介はレジオ・マリエ

カトリック教会のカテキズムより

1370 キリストの奉献には、今この世に生きる人たちだけではなく、すでに天の栄光に入った人たちもともに参加します。教会は、いと聖なるおとめマリアに結ばれ、マリアやすべての聖人たちを記念しながらエウカリスチアのいけにえをささげます。エウカリスチアを行うとき、教会はいわばマリアとともに十字架のもとにたたずみ、キリストの奉献と執り成しに結ばれるのです。

1371 エウカリスチアのいけにえはまた、「キリストに結ばれて死に、まだ完全に清められていない」亡くなった信者が、キリストの光と平安とにあずかることができるようになるためにもささげられます。

「このからだはどこにでも好きなのところに葬っておくれ。そんなことに心を煩わさないでおくれ。ただ一つ、お願いがあります。どこにいようと、主の祭壇のもとでわたしを思い出しておくれ」(聖アウグスチヌス)。

「次に、わたしたちは〔奉献文の中で〕、亡くなった聖なる教父や司教たちのため、またわたしたちに先だって亡くなった人々全体のために祈ります。聖にしてこれほどに尊いいけにえがささげられている間になされる執り成しの祈りが、彼らのために大いに役立つだろうと信じているからです。……たとえ亡くなった人々が罪びとであったにせよ、彼らのために神に祈りをささげ、……人々の友である神に亡くなった人々やわたしたちに対するあわれみを願って、わたしたちの罪のためにいけにえとなられたキリストをおささげするのです」(エルサレムの聖チリロ)。

南山句会

平成二十四年九月五日



立山の雲の中なるお花畑
ひまわりや見ればゴツホの優しき目

紀子

ボヘミアのグラス一輪コスモスを
墓詣り日々しあわせと母に告げ

瑞子

語り部を孫に託せり原爆忌
被昇天祭ルルドのマリア笑み給ふ

洋子

ザイル持つ父の記憶や秋茜
串岩魚ロツジの窓の山雨急

義子

喜びは葉月の風に乗って来し
ふと旅愁感じて秋の霧ヶ峰

牧子

竜胆の色に魅せられ歩み止む
遺影にと岐阜提灯の灯をともし

とく子

ボスニアに弾痕深し灼くる道
水泳を楽しむ神父アドリア海

せつ子

毎月第一水曜日午後一時半
マリア館二階集会室

信者の消息

受洗

おめでとうございます

ベルテッタ
ヨハネ

林千恵子
鬼頭昌之

結婚

♡ お幸せに ♡

ヨハネ 村橋 一 ♡ 塩井 紅^{ベニ}
マリヲ 仲松 ダニエル ♡ 杉村 如苗

転出

いつまでもお元気で

フランスコ 森 一重 (桐生教会)

転入

ようこそ

ミドロ
マリア・ルテス 美土路 幹子 (岡崎教会)

教会維持費

9月は1164.690円の維持費が納められました。有難うございました。

教会の維持・運営・宣教活動は、教会信者全員が毎月納める維持費によってまかなわれますので、よろしくお願いします。

2012年10月・11月度行事予定表

	教会典礼歴	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
10月	ロザリオの月 21(日)世界宣教の日	28(日)バザー・日英合同ミサ	5(金)マリア会例会(懇談会) 7(日)運営委員会 14(日)典礼委員会 20(土)10:30子ども部屋 27(土)要約筆記付きミサ	18(木)司祭協議会 21(日)世界宣教の日(献金)
11月	死者の月 1(木)諸聖人の祭日 2(金)死者の日 9(金)ラテラン教会の献堂 25(日)王であるキリスト	1(木)行事予定及び予算審議開始 4(日)14:00墓参 11(日)子供のミサ(七五三) 25(日)9:30天使ミサ・入門式・日英合同ミサ	4(日)運営委員会 11(日)教会学校七五三 11(日)典礼委員会 17(土)10:30子ども部屋 24(土)要約筆記付きミサ	4(日)教区東八事合同慰霊祭 15(木)司祭協議会